

本事業の自走化計画

① 自走化の実現に向けた取組内容【2ページ以内】

広島大学における本事業の実施は、計画当初から、財政支援終了後の継続的实施を念頭において構築した。そのため、事業初期段階においてシステム構築や制度改革に集中して補助金を投入するとともに、後年度負担の大きい人件費部分が最小限になるように設計した。

本事業開始当初から、以下の取組により、学内予算への内在化を行いつつ全学体制で本事業に取り組んできた結果、2018年度までの補助金の逡減にもかかわらず、数値目標を伴う共通成果指標18項目については、2018年度(通年)の達成率は9割と、極めて順調に進捗している。また未達成の2項目中1項目についても、2019年度までの達成が確定しており、残る「語学レベルを達成した学生数」も直近2年間で約2倍に増加させており、外部評価委員会からも、進捗状況全般について非常に高く評価されている。

今後は以下の取組を継続・拡充することにより、補助金終了後の自走化を図る。

1. 教員人事の一元化とAKPI®等を活用した効率的な人的資源の配置

2016年度から、学長の下に「全学人事委員会」を設置し、人員配置から候補者選考まで役員会の議を経て学長が決定する体制に移行した。全学人事委員会では、AKPI®(Achievement-motivated Key Performance Indicator)を活用することにより、教員数が逡減するなか、教育研究組織の枠を超えた全学的視点に基づく計画的な人員配置を行っている。その結果、外国人等教員、女性教員を積極的に採用することができ、本事業で掲げる目標値(2019年5月1日時点)の達成につながった。

AKPI®は、本学教員の、教育／研究／グローバル化に関する活動を可視化し、モニターする本学独自の成果指標である。この指標は、本事業において、限りある人的資源の中で研究と教育の両面で最大の結果を出し、本学のグローバル化を推進することを目的として開発したものである。

補助期間終了後も引き続き本指標を活用することにより、取組を安定して継続し、SGUの目標を達成する全学体制を整えている。

2. 学内予算への内在化

本事業の開始に伴い、新規に取り組んできた、階層的TA制度の確立、学生の語学力向上への取組(グローバルコモンズ、短期派遣プログラム)、外国語の授業増加へ向けた取組(英語によるFD研修)等については、制度の確立・拡充とともに、段階的に取組に必要な人件費、事業費を運営費交付金へ切り替えることで、すでに学内予算への内在化を行っている。

3. 外部資金等の獲得のための体制整備

効率的な人的資源の配置と予算の内在化を前提としながらも、以下のような体制整備、計画を実施することにより、外部資金等(①寄附金等の増加、②企業との連携、③授業料・研修費収入の増加)を獲得し財源を確保する。

① 寄附金等の増加

2017年度以降10年間のプランを定めた「広島大学新長期ビジョン SPLENDOR PLAN 2017」は教員や組織を支援する寄附金制度と「安定的な資産運用」を掲げている。これら

を達成するための具体的な行動として、学長の直下に設置した（2018年度）基金室を司令塔として、寄附金額を増大させ大学基金を充実させる。

②企業との連携

企業との大型の共同研究を獲得していくため、2019年度にオープンイノベーション事業本部を設置した。本事業本部では、国際的なビジネスや産学連携の経験を有する優れた人材を外部から招へいし、本学の強みを活用して大型の共同研究を企画・提案する等、集中的にマネジメントできる体制を構築している。

また、企業などからの資金や研究者の受入れを推進し、産学連携を更に加速するため、包括的連携協定の締結、「共同研究講座」を拡充していく。さらに、民間等外部の機関と大学において新たな価値共創型の産学連携共同研究と人材育成の推進を図るため、共創研究所制度を設けた（2018年度）。

③授業料・研修費収入の増加

国際センターを改組し、森戸国際高等教育学院を設置した（2018年度）。「日本語・日本文化特別研修」等受入れ・派遣プログラムを充実させている。今後は、日本語・日本文化教育拠点を目指すとともに、プログラムの収益化をはかる。

4. 外部資金等の獲得

上記体制の下、以下のように外部資金等を獲得する。

①寄附金等の増加

広島大学基金（広島大学冠事業基金・広島大学修学支援事業基金）を拡充し、2024年度までに大学基金の総額を100億円とする目標をたてている。広島大学基金は、日本人学生の派遣（特に海外留学経験が少ない1年生の短期派遣、2年生以上の中長期派遣、大学院生のための国際学会発表）、受入学生の奨学金等のために用いる。

また、クラウドファンディングを導入し、寄附金収入を拡大する。

②企業との連携

上述したオープンイノベーション事業本部による企業との大型の共同研究を推進し、2024年度には、7.65億円の外部資金獲得を目指す。

共同研究講座や共創研究所などの取組みにより、2021年度までに企業などからの資金や研究者の受入れを推進する共同研究講座数を21件、企業との共同・受託研究件数（受入額500万円以上）は54件を実現する。

③授業料・研修費収入の増加（プログラムフィーの徴収）

森戸国際高等教育学院による「3+1プログラム」は、プログラムのさらなる充実により、海外協定大学等からの派遣希望が大幅に増加した（2018年度は前年比56名増の146名、2023年度には500名程度を受け入れ予定）。また、短期の「日本語・日本文化特別研修」の研修生も増加している。これらのプログラム・研修では、時間数に見合った正規の授業料及び研修料を徴収しており、受入学生の増大により、授業料等収入の増加が見込まれる。その余剰分の一部を、学生派遣の財源に充当することにより派遣日本人学生数を増加させる。

② 取組内容の年度別実施計画【2ページ以内】**【2019年度】**

1. AKPI®等を活用した計画的人員配置（2020年度以降も継続して実施）
引き続き、AKPI®等を活用した計画的人員配置を行う。
2. 学内予算の内在化（2020年度以降も継続して実施）
補助金だけでは不足する経費は学内予算を活用して事業を継続するとともに、学内予算への内在化を順次拡大する。
- 3及び4.
 - ①寄附金等の増加
 - ・広島大学基金において卒業生や一般の篤志家からの寄附を推進するため、寄附メニューの拡大方策を検討する。
 - ・事業会社と包括契約を締結し、クラウドファンディングを開始。
 - ②企業との連携
 - ・オープンイノベーション事業本部（以下「OI事業本部」）を通じた共同研究による外部資金の獲得 114百万円
 - ・共同研究講座の設置 14件
 - ・共同・受託研究件数（受入額5百万円以上）41件
 - ③授業料・研修費収入の増加
 - ・受入れ・派遣プログラムの期間・内容・交流国等を充実させるとともに、料金体系や学生負担金の見直しを検討する。

【2020年度】

1. AKPI®等を活用した計画的人員配置
2. 学内予算の内在化
- 3及び4.
 - ①寄附金等の増加
 - ・広島大学基金において、寄附メニューを拡大し、Webサイトを通じて寄附募集を実施する。
 - ・クラウドファンディングを実施。
 - ②企業との連携
 - ・OI事業本部を通じた共同研究による外部資金の獲得 223百万円
 - ・共同研究講座の設置 18件
 - ・共同・受託研究件数（受入額5百万円以上）47件
 - ③授業料・研修費収入の増加
 - ・受入れ・派遣プログラムの期間・内容・交流国等を充実させるとともに、料金体系や学生負担金を見直し、可能なものから改訂して自己収入を拡大する。

【2021年度】

1. AKPI®等を活用した計画的人員配置
2. 学内予算の内在化
- 3及び4.
 - ①寄附金等の増加
 - ・広島大学基金において、引き続きWebサイトを通じて寄附募集を実施する。
 - ・クラウドファンディングを実施。
 - ②企業との連携
 - ・OI事業本部を通じた共同研究による外部資金の獲得 276百万円
 - ・共同研究講座の設置 21件
 - ・共同・受託研究件数（受入額5百万円以上）54件

<p>③授業料・研修費収入の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入れ・派遣プログラムの期間・内容・交流国等を充実させるとともに、料金体系や学生負担金を見直し、可能なものから改訂して自己収入を拡大する。
<p>【2022 年度】</p> <p>1. AKPI®等を活用した計画的人員配置</p> <p>2. 学内予算の内在化</p> <p>3 及び 4.</p> <p>①寄附金等の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島大学基金において、引き続きW e b サイトを通じて寄附募集を実施する。 ・クラウドファンディングを実施。 <p>②企業との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OI 事業本部を通じた共同研究による外部資金の獲得 535 百万円 ・産学共創活動による外部資金の獲得に引き続き努める。 <p>③授業料・研修費収入の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入れ・派遣プログラムの期間・内容・交流国等を充実させるとともに、料金体系や学生負担金を見直し、可能なものから改訂して自己収入を拡大する。
<p>【2023 年度】</p> <p>1. AKPI®等を活用した計画的人員配置</p> <p>AKPI®等の指標見直しを図る。</p> <p>2. 学内予算の内在化</p> <p>3 及び 4.</p> <p>①寄附金等の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島大学基金において、引き続きW e b サイトを通じて寄附募集を実施する。 ・クラウドファンディングを実施。 <p>②企業との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OI 事業本部を通じた共同研究による外部資金の獲得 613 百万円 ・産学共創活動による外部資金の獲得に引き続き努める。 <p>③授業料・研修費収入の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入れ・派遣プログラムの期間・内容・交流国等を充実させるとともに、料金体系や学生負担金を見直し、可能なものから改訂して自己収入を拡大する。
<p>【2024 年度以降】</p> <p>1. AKPI®等を活用した計画的人員配置</p> <p>新たな KPI 指標を設定し、実施する。</p> <p>2. 学内予算の内在化</p> <p>3 及び 4.</p> <p>①寄附金等の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島大学基金において、引き続きW e b サイトを通じて寄附募集を実施する。 ・クラウドファンディングを実施。 <p>②企業との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OI 事業本部を通じた共同研究による外部資金の獲得 765 百万円 ・産学共創活動による外部資金の獲得に引き続き努める。 <p>③授業料・研修費収入の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入れ・派遣プログラムの期間・内容・交流国等を充実させるとともに、料金体系や学生負担金を見直し、可能なものから改訂して自己収入を拡大する。